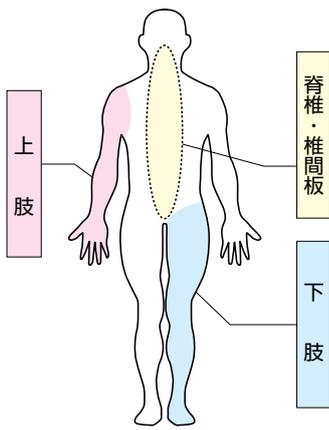


診療最前線

整形外科



整形外科は、骨・関節・筋肉・靭帯・腱・脊髄・神経の疾患および外傷による損傷を治療します。首から腰にかけての脊椎、上肢および下肢の疾病、外傷を主に扱う診療科です。

整形外科では、それぞれの医師の専門性を重視し、長野医療圏の整形外科の拠点および最終病院として、急性外傷および慢性疾患まで、メデイカルスタッフも参加したチーム医療を行っています。

関節外科

関節外科では、膝関節や股関節など下肢関節疾患を中心に診療を行っています。変形性膝関節症に対しては、「関節鏡手術」

2018年患者数
 外来：55,806人 (1日平均210.0人)
 入院：27,852人 (1日平均76.4人)
2018年手術件数：1353件
 外傷：706件 (上肢200件、下肢495件、脊椎など11件)
 疾病：647件 (上肢197件、下肢336件、脊椎など114件)



Double level osteotomy

「膝周囲骨切り術」「人工膝関節置換術」などの手術を、患者さんの年齢や活動レベル、ニーズに応じて選択しています。特に、膝周囲骨切り術は比較的活動性が高い患者さんに行っている手術で、ここ数年で劇的にその適応が拡大され、手術手技や固定器具が改良されています。また、従来、変形性膝関節症の患者さんには高位脛骨骨切り術を行ってきましたが、最近では、高位脛骨骨切り術に大腿骨遠位端骨切り術を組み合わせた Double level osteotomy という手術も行っています。長野県ではまだほとんど行われていませんが、術後にその患者さん本来の膝機能を発揮しやすくなることを考え、当院では適応を選んで積極的に取り入れています。

人工膝関節手術の術式

UKA (単顆置換型)	
■膝内側のみ置換する	
TKA (全置換型)	BCR型 (両十字靭帯温存型) ■前十字・後十字靭帯ともに温存する
	CR型 (後十字靭帯温存型) ■後十字靭帯のみを温存する
	CS型、PS型 (十字靭帯代償型) ■損傷した十字靭帯の機能を補う



《人工関節センター》
人工膝関節置換術
 当院が得意とする手術の一つで、年間約160関節に施行しています。近年、様々な特徴を持った人工関節が開発されており、変形の程度や年齢・活動性を考慮し、また機能している部分を最大限温存できるように、術式を使い分けています。

人工股関節置換術

「前方アプローチ（DAA）」という股関節前方から行う手技は、皮膚切開が短く、筋肉・神経・血管への負担も少なく早期からリハビリテーションを行えるため、世界でも徐々に普及しています。当院ではDAAに工夫を加えたAMISという手技を導入し、年間約70〜80例に施行しています。安定して脚を保持できる装置（レッグポジショナー）を使用し、レントゲン透視画像を確認しながら人工関節をより正確に設置することで、安定した手術成績を収めています。



術中は、レッグポジショナーを用いて下肢の動きを抑制します。

上肢の外科

上肢の外科はおもに肩関節から手指までの疾患及び外傷を治

療します。肩関節では腱板断裂、五十肩、変形性肩関節症、肘では変形性肘関節症、肘部管症候群、手関節および手では腱鞘炎、手根管症候群、母指のCM関節症、変形性手関節症などの変性疾患に対する治療を行います。

また肩、肘、手関節のスポーツ障害、反復性肩関節脱臼、肩、肘、手関節及びそれらの周囲の骨折、さらに上腕、前腕、手指の骨折、変形治療骨折に対しても治療を行っています。



デュピュイトラン拘縮に対し、手術治療だけでなく注射による治療も行っています。

脊椎外科

高齢社会となり、加齢に伴う脊椎脊髄疾患（骨粗鬆症、脊椎圧迫骨折、脊柱管狭窄症、靭帯骨化症、頸髄症などの疾患）が増加しています。問診と詳細な

高年齢社会となり、加齢に伴う

脊椎脊髄疾患（骨粗鬆症、脊椎

圧迫骨折、脊柱管狭窄症、靭帯

骨化症、頸髄症などの疾患）が

増加しています。問診と詳細な



腰椎分離すべり症のX線画像

診察に、X線、MRI、CT、骨密度などの画像解析を加え診断します。治療はまず手術以外の方法による症状緩和、あるいは日常生活上のアドバイス、薬物療法、運動療法、リハビリテーション、および当院ペインクリニックと連携したブロック治療などの保存療法を行います。それでも症状が改善しない場合に手術療法を選択し、顕微鏡や高解像能透視装置、術中脊髄誘発電位、脊椎内視鏡を駆使して低侵襲で安心安全な除圧術・固定術・矯正術を行います。

スポーツ整形外科

スポーツによる外傷や障害全般を対象としており、県内外から多くの患者さんが来院します。治療の中心はリハビリテーションと外科的治療（手術）で、患者さんの競技種目や身体特性を

スポーツによる外傷や障害全

般を対象としており、県内外か

ら多くの患者さんが来院します。

治療の中心はリハビリテーシヨ

ンと外科的治療（手術）で、患

者さんの競技種目や身体特性を

考慮して最適な治療法を選択しています。特に前十字靭帯再建術・半月板縫合術・軟骨移植術など膝関節や足関節の関節鏡視下手術の件数は全国的にも突出しています。

当科の理念は「時間がかかっても最高の状態に持っていく」ことであり、早期競技復帰を望む患者さんからすればもどかしなく感じる場合もあるかもしれませんが、流行に流されることなく、高みを目指して診療にあたっていきます。



きめ細やかで充実したリハビリテーションを提供しています。

整形外科初診患者さんはこちらの紹介状（診療情報提供書）が必要です。

整形外科は完全予約制で、初診患者さんは紹介状が必要です。

なお、緊急入院を要する場合は従来どおり、紹介状がなくとも救急診療にて対応いたします。